

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和 6 年度
----	---------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
・健康の増進 個別支援が必要な後期高齢者の訪問指導、通いの場等における健康状態の把握や健康相談を実施した。 健康相談件数※ 98 件 訪問件数※ 100 件 ※件数は高齢者以外の成人を含む ・高齢者の生きがいづくり、一般介護予防事業の推進 足うら健康クラブ：回数 24 回 / 延参加者数 496 人 足うら健康サロン：開催件数 5 件 くすの木クラブ（運動）：回数 182 回 / 延参加者数 3,652 人 くすの木クラブ（脳トレ）：回数 99 回 / 延参加者数 1,001 人 介護予防サポーター数：194 人 今年度新規登録者数：14 人
自己評価結果
・健康相談件数、訪問件数 【〇】 KDBシステムを活用し、生活習慣病重症化リスクが高い後期高齢者や、健診・医療・介護の履歴がなく健康状態が不明な後期高齢者を抽出し、保健師が訪問指導や必要なサービスへの接続を行った。国保担当課と連携し糖尿病重症化リスクが高い後期高齢者に対する訪問指導を行うなど、現役世代から後期高齢者まで切れ目のない支援を行うことができたため「〇」と評価した。

- ・介護予防事業の実施状況、参加者数

【○】

地域での介護予防を推進するため通いの場に専門職を派遣しており、今年度はチラシを新たに作成し健康運動指導士(足うら健康サロン)のほか、歯科衛生士と保健師の派遣も積極的に行った。その結果、依頼件数は18件と昨年より増加し、今まで関与したことの無い通いの場からの依頼も増加したため「○」と評価した。

- ・介護予防サポーター数

【◎】

年度末時点のサポーター数は目標値に到達することができ、新たに2名の介護予防サポーターが市の介護予防教室でのサポーター活動につながった。養成講座終了後、関心の高いうちに具体的活動につなげるための支援ができたため「◎」と評価した。

課題と対応策

- ・健康の増進

地域分析より、運動器の機能低下リスクや転倒リスクのある高齢者の重症化予防や健診受診率の低下などが課題となっているため、引き続きハイリスク者だけでなく通いの場などで健康状態の把握や健康教育、健康相談を実施していく。

- ・介護予防事業の実施状況、参加者数

新規利用者も増えつつあるが、参加者や件数が横ばいとなっている事業もあるため、関係機関と連携して様々な機会を活用し介護予防事業の普及啓発に努める。

通いの場への専門職派遣事業では、依頼件数は増加しているものの全体的な件数はまだ少ないため、案内時期の見直しや事業内容の充実を図る。

- ・介護予防サポーター数

介護予防サポーターの登録者数は増加傾向だが、実際に活動しているサポーターが固定されつつある。また、全体的にサポーターが高齢化している。そのため、日頃から活動意欲の高い人材を見つけるなど新規サポーターの獲得に努めるとともに、介護予防サポーターの活躍の場の充実を図る。